

棚田地域振興法事例集

～ 指定棚田地域の指定～活動計画の認定 編 ～



内閣府
地方創生推進事務局

令和 3 年 5 月

はじめに

令和元年8月に棚田地域振興法が施行され、多様な主体が参画する地域協議会による棚田を核とした地域振興の取組を関係府省庁横断で総合的に支援する枠組みが構築されました。

本法律の施行後約1年が経過した現在、多くの地域において本法律を活用していただいております。

これらの地域に御協力いただき、指定棚田地域の指定から協議会の設立、指定棚田地域振興活動計画の策定・認定までの一連の流れに関する事例を、取組の経緯やキーパーソン、合意形成のポイントなどの情報を交えてご紹介いただきました。

今後の棚田地域振興の取組開始の参考としていただければ幸いです。

本事例集について

今回は、各地域のご協力のもと、指定棚田地域の指定から指定棚田地域振興活動計画の認定までの事例をご紹介します。

事例は今後も順次追加・更新する予定としております。

【お問合せ先】

内閣府地方創生推進事務局

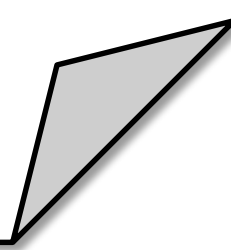
TEL（直通）：03-6257-1410

e-mail：i.tanada@cao.go.jp



棚田地域振興法に関する詳細はこちら

【目次】

- ① 新潟県十日町市 松之山指定棚田地域振興協議会
 - ② 富山県氷見市 氷見市棚田振興協議会
 - ③ 岐阜県飛騨市 種蔵棚田連絡協議会
 - ④ 岐阜県揖斐川町 貝原棚田地域振興協議会
 - ⑤ 静岡県松崎町 石部棚田振興協議会
 - ⑥ 島根県奥出雲町 奥出雲町指定棚田地域振興協議会
 - ⑦ 広島県安芸太田町 井仁棚田協議会
 - ⑧ 福岡県うきは市 うきは市棚田保全協議会
 - ⑨ 長崎県長崎市 大中尾棚田保全組合
 - ⑩ 長崎県平戸市 春日の棚田振興協議会
 - ⑪ 熊本県球磨村 球磨村棚田地域振興協議会
 - ⑫ 鹿児島県いちき串木野市 いちき串木野市地域棚田振興協議会
- 

新潟県十日町市 松之山指定棚田地域振興協議会

数々の美しい棚田や日本自然百選にも選ばれたブナ林に代表される、日本の原風景を色濃く残す地域。日本三大薬湯の松之山温泉や大地の芸術祭など豊かな観光資源を活かし、年間を通じて多くの観光客が訪れる。

【基本情報】

保全を図る棚田等	387.5ha
棚田百選	狐塚の棚田
その他	棚田カード（狐塚の棚田・留守原の棚田） にほんの里100選

【これまでの取組】

天水・藤倉集落協定、下川手集落協定

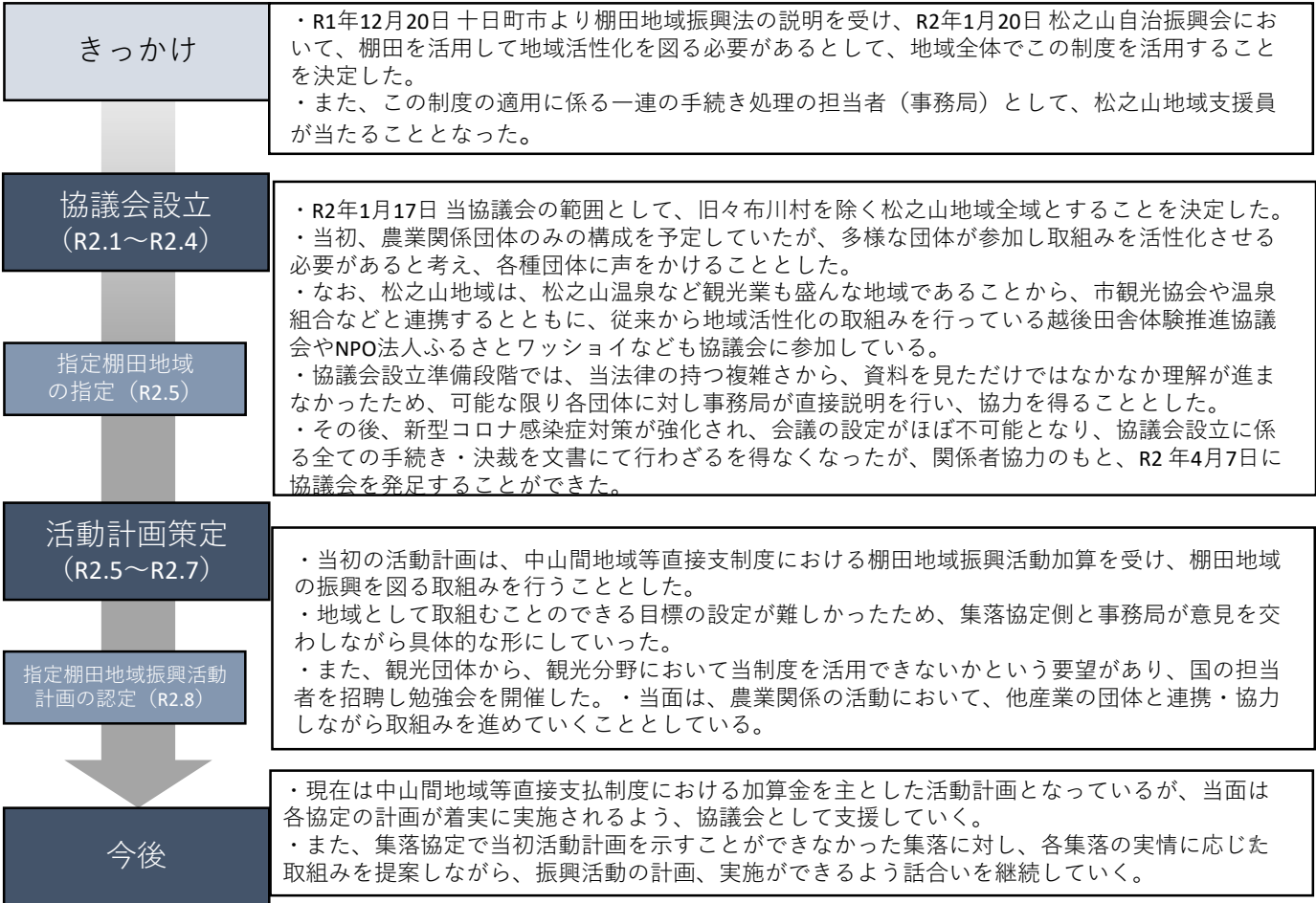
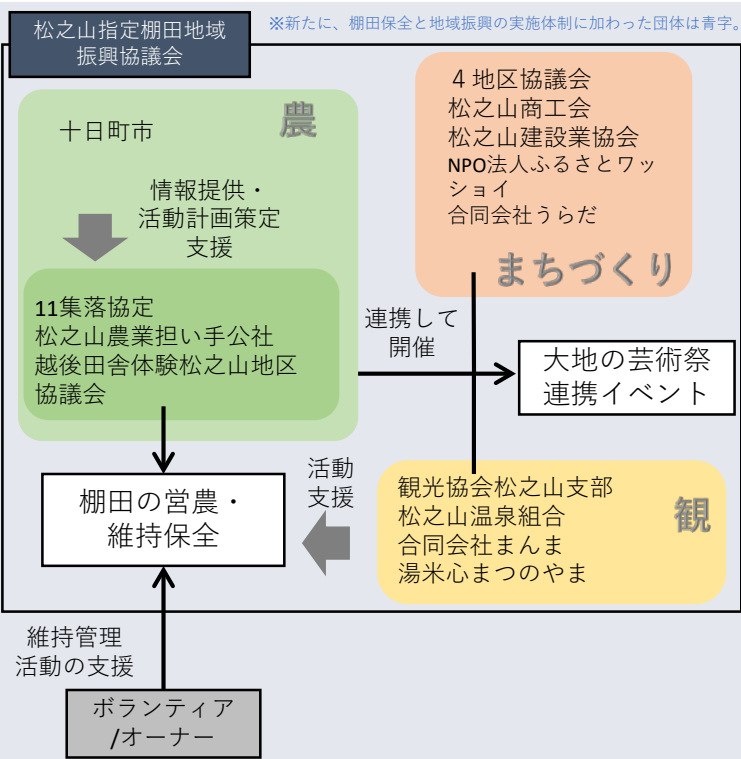


観光スポットの一つである「留守原の棚田」を、観光関係者等が連携し維持管理作業を行っている。

かつて集落で生産されていた日本酒「松風」を地元の棚田産酒米により復刻し、地域のイメージアップを図っている。



【協議会の構成員と体制】



氷見市は6割が中山間地であり、人口減少が進み、農業従事者の高齢化や担い手不足が深刻化している。このような中、地域資源の「棚田」をキーワードに地域に新しい風を吹き入れ「元気な地域づくり」を目指す。

【基本情報】

保全を図る棚田等	100ha
日本の棚田百選	長坂の棚田（6棚田のうち1か所）
その他	美しい日本のむら景観コンテスト・全国農業協同組合中央会長賞受賞、豊かなむらづくり北陸農政局長賞受賞、とやま未来遺産認定、棚田カード作成等

【これまでの取組】

・長坂集落協定、氷見市棚田保全推進会議



（棚田オーナー活動）平成11年度より、棚田保全対策としてスタートしました。区画を貸し出し、オーナーは田植え、稲刈り、はさがけ体験をすることができます。作業やイベントを通して、オーナーと地元住民が交流を深めています。

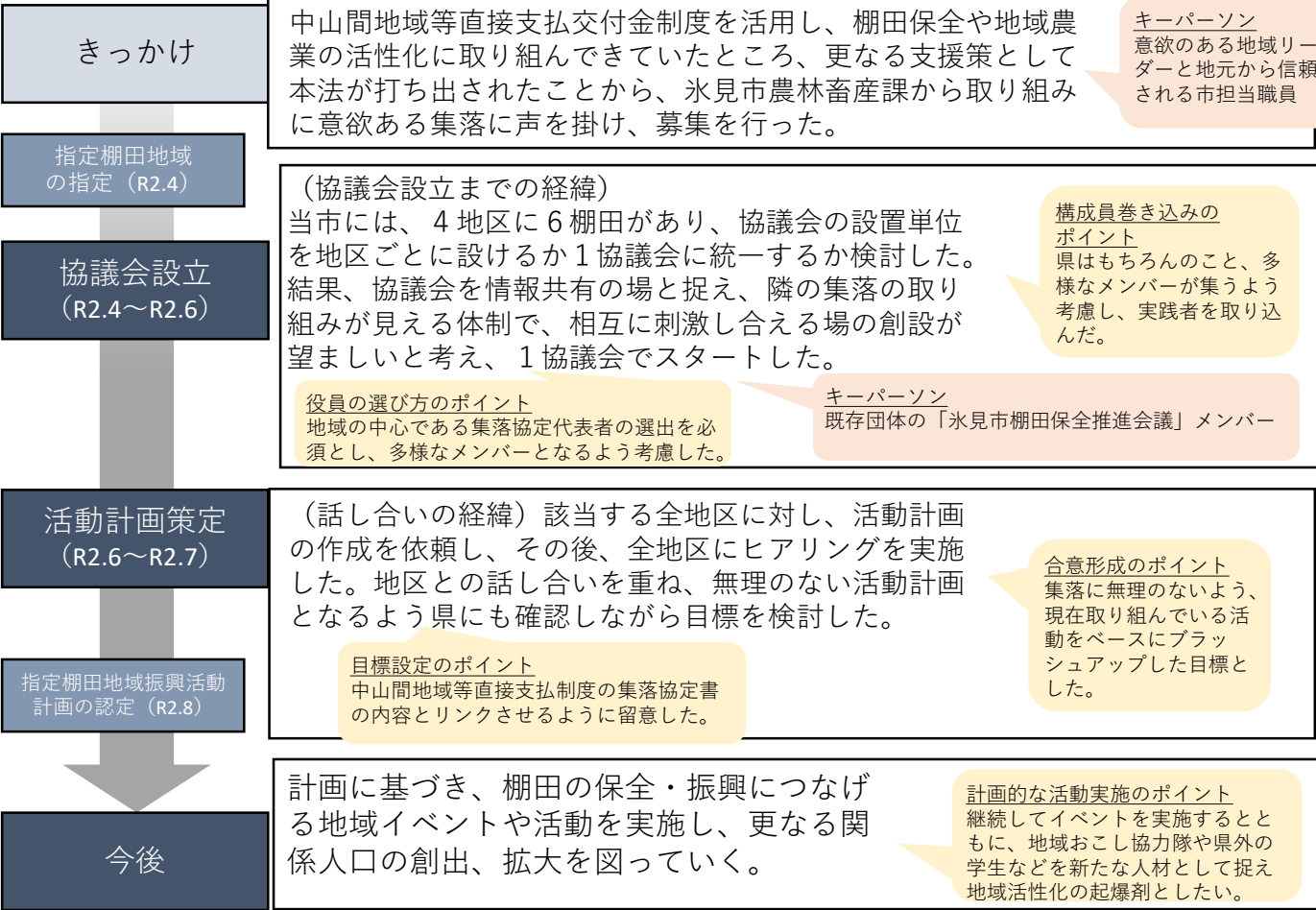
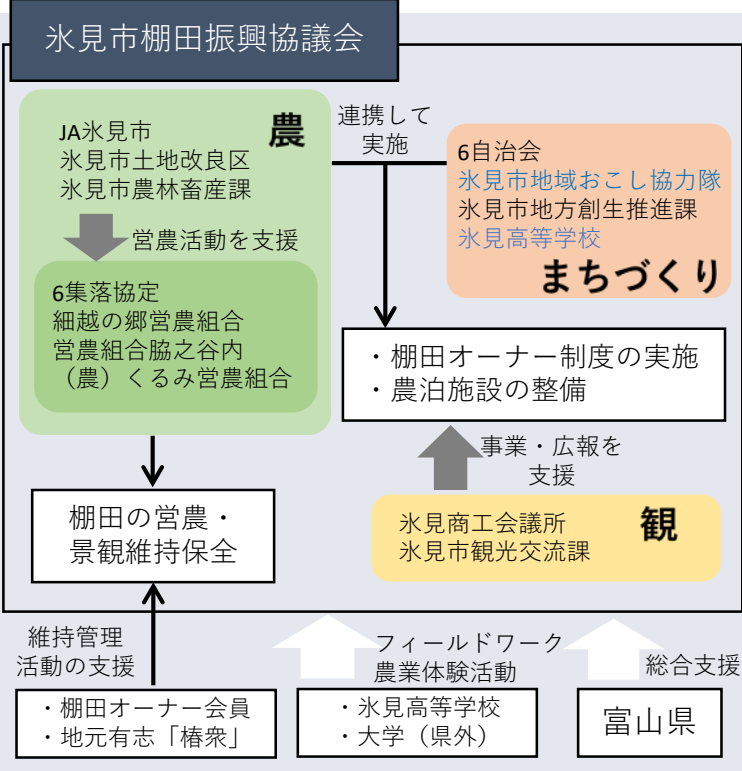
・胡桃集落協定、胡桃棚田保全活動推進委員会

（氷見高校生による農業体験）平成16年度から、地元の氷見高校生を対象に、田植え・稲刈り体験を実施しています。農業への関心を高めるとともに、棚田保全への興味をもってもらおうと毎年実施しています。



【協議会の構成員と体制】

※新たに、棚田保全と地域振興の実施体制に加わった団体は青字。



日本の農村の原風景が残る種蔵集落（旧旧 坂上村）は岐阜県最北端の飛騨市宮川町に位置し、特徴である「石積みの棚田と板倉の里」の景観を未来へ伝えるために、農業中心の保全活動を行っています。

【基本情報】

保全を図る棚田等	3.4ha
岐阜県の棚田21選	種蔵棚田
その他	かおり風景百選（環境省） 東海美の里百選（東海農政局） 明日の宝もの（岐阜県） 棚田カード等

【これまでの取組】

種蔵を守り育む会①、飛騨市ふるさと種蔵村②

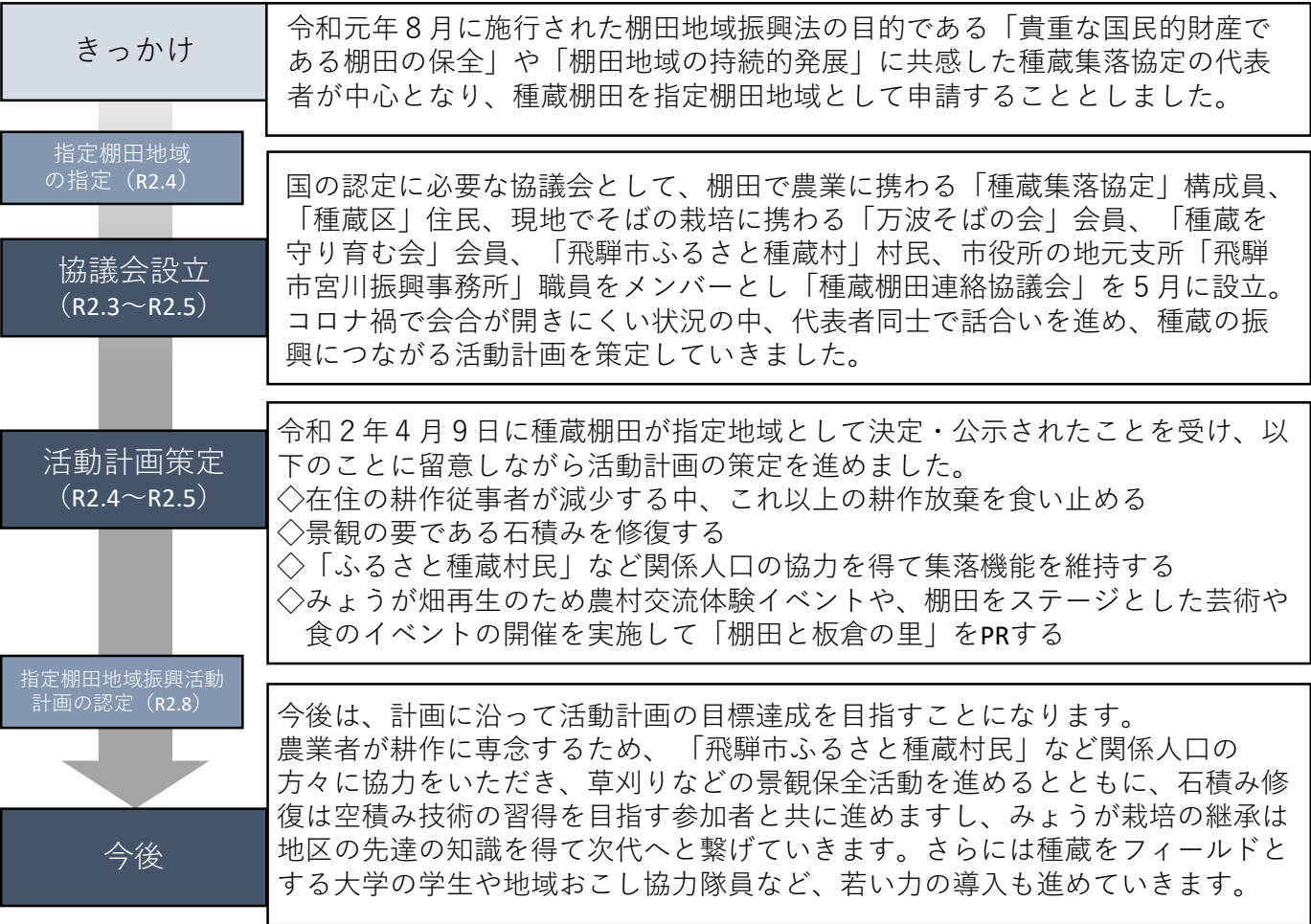
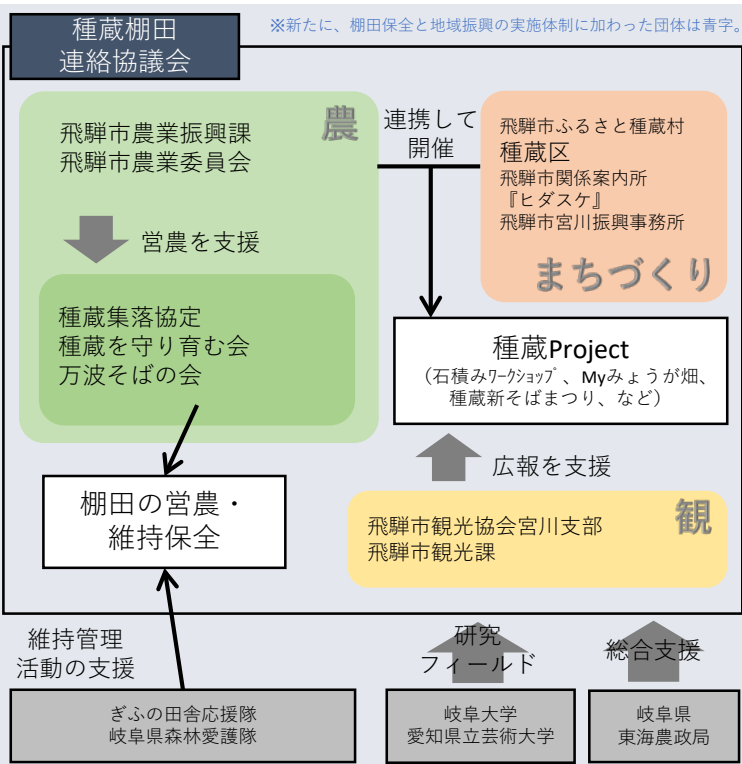


①ふるさと景観保全組織として2006年に結成後、約15年に渡り草刈りや集落内耕作道補修などの保全活動を展開。また、市外ボランティアとの架け橋となっています。



②2018年に立村。「守りたい故郷がある」「残したい故郷がある」「つくりたい故郷がある」をキャッチフレーズに、集落機能の維持を目指し都市住民との交流や、集落を芸術活動の実践の場としてコンサートの開催などの取り組みを行っています。

【協議会の構成員と体制】



貝原棚田は、春日地域の入口から粕川に沿っておよそ9 km上流に位置し約300年前に造成された、槍ヶ先（標高965m）の山麓に広がっている棚田です。

【基本情報】

保全を図る棚田等	約2.6ha
岐阜県の棚田21選	貝原棚田

【これまでの取組】

貝原集落協定①、貝原棚田保存会②

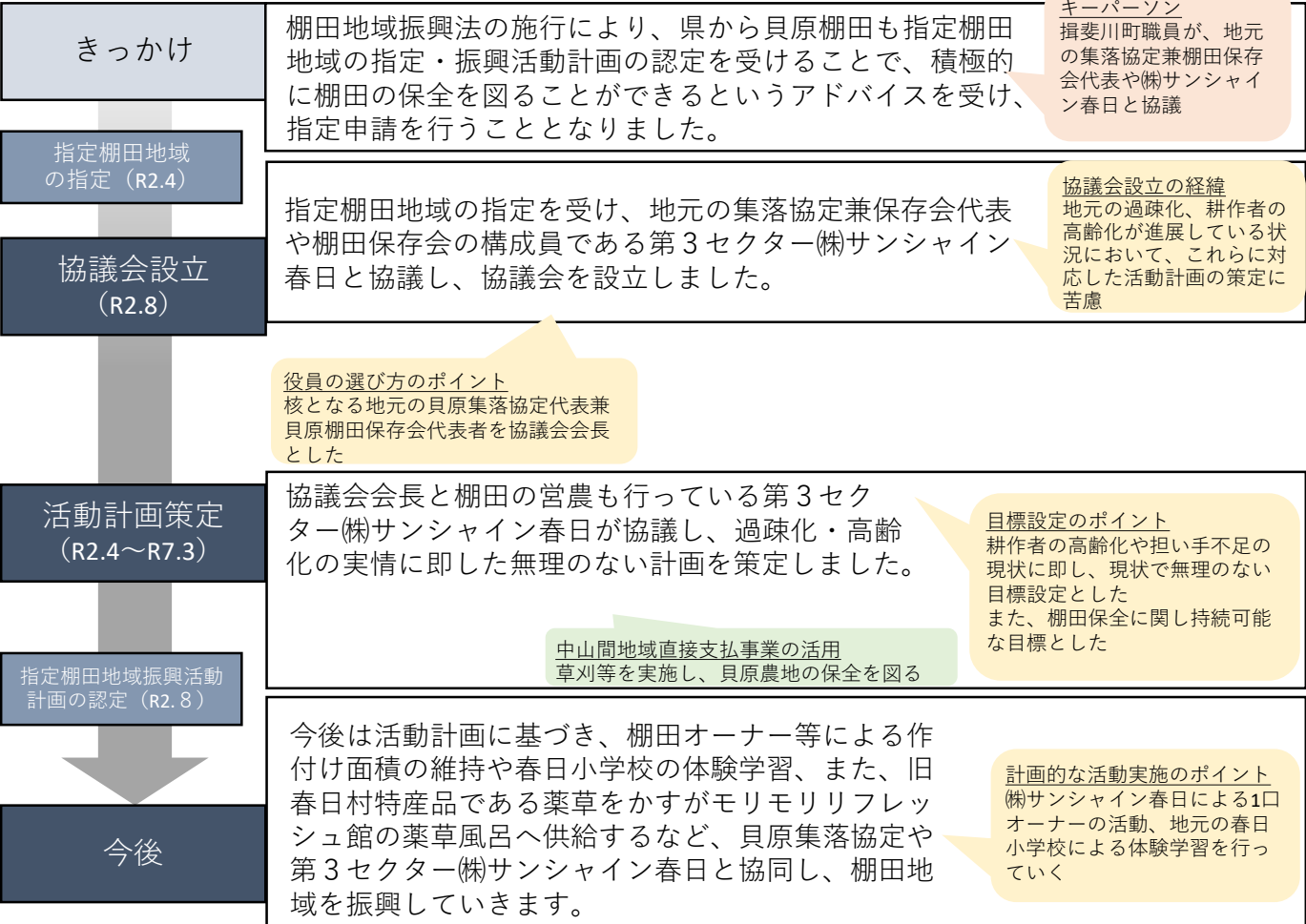
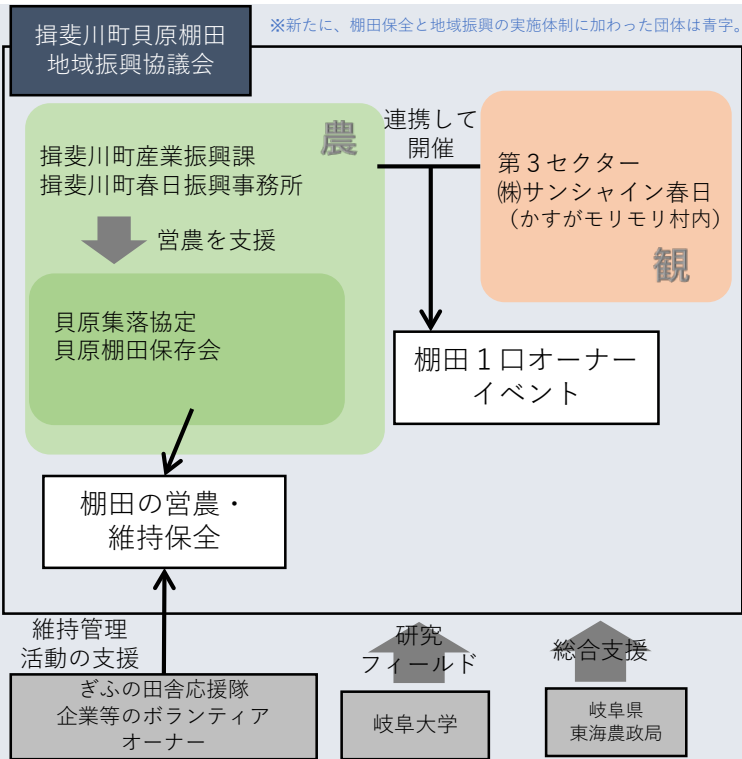


①貝原集落協定の構成員により、農地の草刈を年2回実施しています。



②貝原棚田保存会の構成員である第3セクター(株)サンシャイン春日が1口オーナー制度を実施し、田植えや稲刈などに取り組んでいます。

【協議会の構成員と体制】



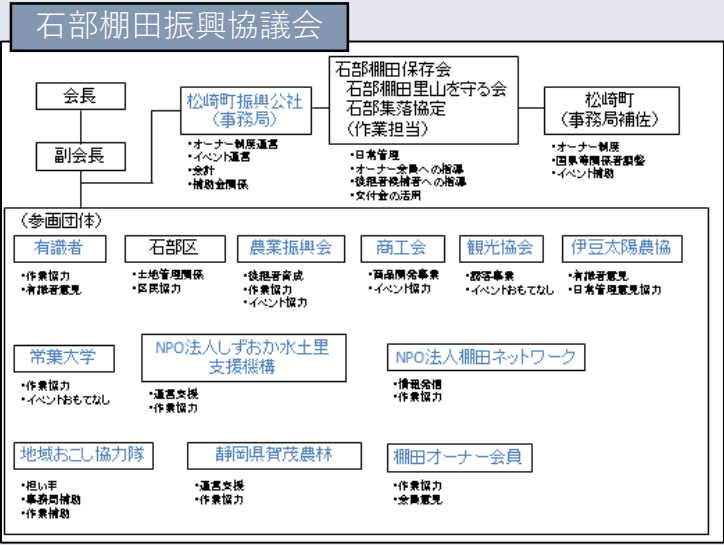
石部棚田のある石部地区は、松崎町南部に位置し駿河湾沿いにある小さな集落である。歴史が古く、昭和50年代までは、棚田での耕作と漁業の半農半漁生活を主としていた。

【基本情報】

保全を図る棚田等	11.2ha
静岡県棚田等十選	石部の棚田
その他	立ち上がる農山漁村、美の里づくりコンクール、オーライニッポン大賞、日本で最も美しい村、ふじのくに美しく品格のある邑等

【協議会の構成員と体制】

※新たに、棚田保全と地域振興の実施体制に加わった団体は青字。



【これまでの取組】

石部地区棚田保全推進委員会、石部棚田保存会

○復田

昭和50年代から棚田が荒廃していったが、「地域を少しでも良くしたい」という思いから、平成11年に石部地区を中心とした石部地区棚田保全推進委員会を発足し、荒廃した棚田を復田させた。



○保全活動

地元住民で構成される石部棚田保存会と地域おこし協力隊による日常管理、オーナー制度会員による田植え祭や収穫祭（稲刈り）、年間作業における常葉大学からの作業協力等の保全活動を行っている。活動の実施にあたっては、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金を活用し、日当や消耗品の購入等にあてている。



きっかけ

地域の高齢化や担い手不足等の課題を抱え、当時の体制で棚田を保存していくことが困難となっていたところ、地元国会議員にお声かけいただき、法勉強会や農水省地域振興課長との意見交換会の開催をきっかけに、県や町と一体となって法活用に向けて準備を始めた。

キーパーソン

法が可決された当初、当棚田オーナー会員でもある地元国会議員より、法の内容や取組事例等の勉強会を開催いただけとお声かけいただき、地元を中心に開催した。

指定棚田地域の指定（R1.12）

協議会設立（R2.6）

国の支援を受ける仕組みのための設立だけでなく、上記課題解決のため保存組織を強化することを目的に設立した。石部区には役員会や総会にて、構成員には各団体・個人へ、直接現状報告等説明を重ねた。石部区を中心に町全体で棚田を保存していくよう体制構築を図った。

役員の選び方のポイント

前組織（地元）や復田当初から棚田に関わっている方を選定した。

キーパーソン

復田当初の町担当者で、その後も長年棚田に関わっていた方が協議会長に就任した。保存会を中心とした区民からも適任であると信頼があり、行政と地元をつなぐキーパーソンとなっている。

構成員巻き込みのポイント

町全体で保存していく意識を持ってもらうよう、町内の各団体を加えた。さらに、町内外で当棚田に長年関わっている団体も加え、様々な専門分野から当棚田をバックアップしていけるような構成とした。

活動計画策定（R2.6～7）

以前からあげられている課題に対し、各構成員の専門的役割を取り入れた目標を設定した。また、各構成員からの目標の提案も検討しながら取り入れた。

目標設定のポイント

復田当初から行政の濃い関わりがあったため、課題提起や目標設定がスムーズで現状にあったものとなった。

合意形成のポイント

あらかじめ各構成員と話をつめておく。各々ができる役割を確認しておくことで、実施可能な目標設定となり合意が得やすくなる。

指定棚田地域振興活動計画の認定（R2.8）

今後

計画に基づき、保全活動やそれを通じた多面的機能の維持・発揮を行い、棚田を核とした地域の活性化へつなげていく。

計画的な活動実施のポイント

各構成員と連絡を密にし、現状把握や改善を行っている。

島根県奥出雲町 奥出雲町指定棚田地域振興協議会

鉄師ト蔵家で栄えた鳥上地区追谷自治会では、およそ1400年前からたたら操業が行われ、鉄穴流しで出来た棚田が多くある。農業は水稻の作付けが主であるが、作付け面積と同程度の畦畔があり、草刈り作業の負担等高齢化も含め課題が山積している。その中において、この棚田の保全を目的に「灯」をテーマに棚田のライトアップ事業に取り組んでいる。

【基本情報】

保全を図る棚田等	63ha（内棚田37ha）
指定棚田地域	竹崎本郷（追谷）棚田
その他	日本農業遺産、国の重要文化的景観、世界農業遺産（申請中）

【これまでの取組】

竹崎本郷集落協定、棚田ライトアップ実行委員会等

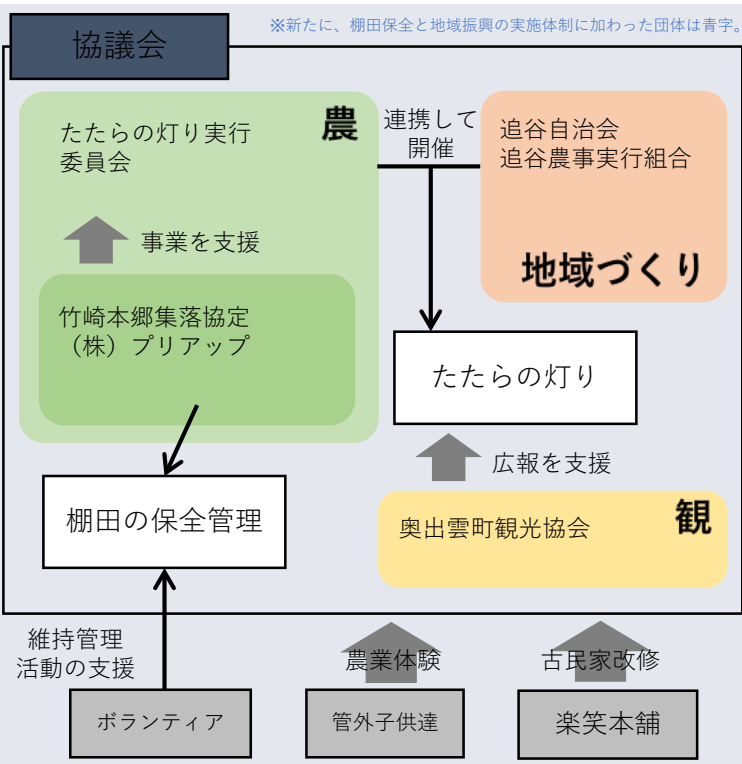


（取組概要）任意組織（楽笑本舗）と一緒に古民家改修を行う。将来的には農泊を目指し「人」を呼び込む。



（取組概要）展望台を基準として見える棚田へ「ペットボトル」を50cm～100cm間隔で8,000本の設置作業を行う。その他、竹灯籠の設置、周辺木々や番傘を設置しライトアップを行う。

【協議会の構成員と体制】



きっかけ

指定棚田地域の指定（R2.5）

協議会設立（R2.5）

活動計画策定（R2.5～R2.7）

指定棚田地域振興活動計画の認定（R2.8）

今後

日本農業遺産認定並びに（株）プリアップ来町による本自治会との交流を機に、集落の棚田の保安全管理を目的に「棚田ライトアップ事業」を始める。

（協議会設立までの経緯）規模を拡大し、将来的にこの事業を維持するため協議会を設立。“人”を当地域に呼び込むために何をするべきかを検討。ライトの設置方法、イベント開催の内容を協議。その後、広報について、SNS、新聞、TVなど思いつくことを実践する。並行して、古民家改修を行い、農業体験・農泊を進める。

（話し合いの経緯）規模拡大（日本一を目指す）を目指す。役割分担を行い、ライト設置、イベント開催など責任者を決め取り組む。田舎の良さをアピールし“人”を呼び込む体制づくりを目指す。

計画に基づき、「ライトアップ事業」を機に、棚田の保安全管理及び農地の維持管理を行うと共に、耕作不利な農地を守れる体制づくりと地域の活性化を図って行く。

キーパーソン
追谷農事実行組合、（株）プリアップ。

構成員巻き込みのポイント
長く続けるため、一部の人員ではなく、自治会全員の体制での取り組みに心がけた。

キーパーソン
各役割の責任者、全体の取り纏め等の責任者。

合意形成のポイント
みんなで取り組む事業とするため、会議を重ね意思の統一を図り、時には懇親の場も設けながら進めている。

目標設定のポイント
今後、「人」を呼び込むための取り組みため新しいアイデア等により町内外を巻き込み取り組むことが必要。

一般コミュニティ事業の活用
宝くじ助成事業により、椅子・机・テント等備品の整備。

計画的な活動実施のポイント
単独組織では限界があり、各組織を巻き込み、町としての事業化を目指す。

地域おこし協力隊との連携により、棚田の保全活動推進、地域コミュニティの強化を通じて、農業生産活動の他、農産物の加工・直売、都市農村交流活動も展開し、地域を活性化。

【基本情報】

保全を図る棚田等	約8ha
棚田百選	井仁の棚田
その他	アメリカ「CNN」の日本の最も美しい場所”31選”

【これまでの取組】

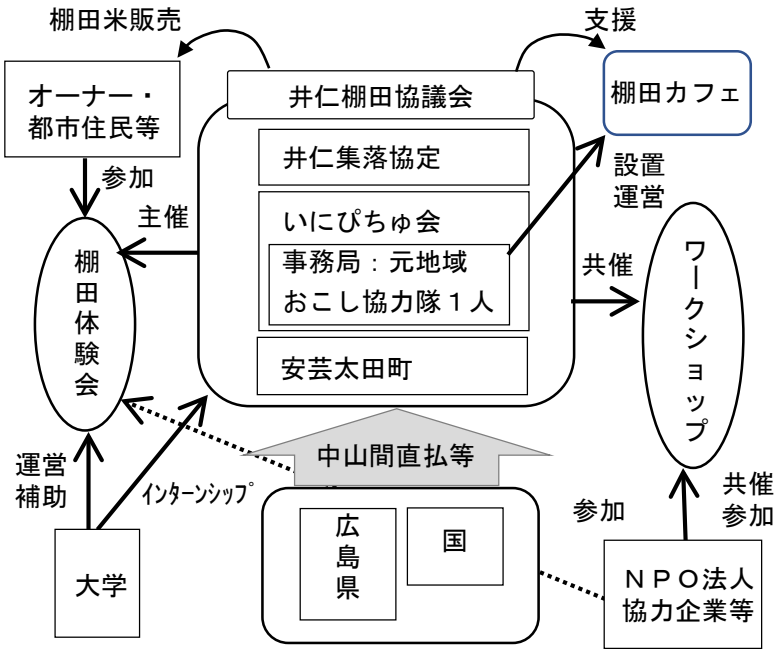


地域おこし協力隊員と集落協定参加者が核となって発足した「いにびちゅ会」が棚田体験会を催し、田植え及び収穫体験を実施。毎年約100名が参加。



地域おこし協力隊員がクラウドファンディングを活用し継続的に都市農村交流活動を行う場とした棚田カフェをオープン

【協議会の構成員と体制】



きっかけ

高齢化による担い手不足が深刻化し、農地の維持・管理が困難になりつつあったことから、平成25年に当時の地域おこし協力隊と集落協定参加者が核となり、自主活動組織「いにびちゅ会」を発足。農地及び景観を活用し、棚田保全や人材育成等のさまざまな教育フィールドとして活用する取組等を実施することとなった。

指定棚田地域の指定 (R2.4)

協議会設立 (R2.4)

(協議会設立までの経緯)

元々、中山間の集落協定や前述の「いにびちゅ会」等の活動素地があったところ、棚田地域振興法をきっかけとして機運が高まり、協議会を設立。役員については、町も主導して打合せを行い、地域で決定。

活動計画策定 (R2.4～R2.7)

指定棚田地域振興活動計画の認定 (R2.8)

(計画策定の経緯)

さまざまな取組を以前から実施していたところ、棚田地域振興法をきっかけとして目標に関する打合せを重ね、町からもアドバイスをを行い、目標数値を設定した。なお、町は一部取組（大学からのインターンシップ受入等）について窓口となって調整するなど、協議会の一員として積極的に棚田の振興に関わっている。

今後

計画に基づき、新たな特産品の開発や米のブランド化などによる、地域での収入確保、都市農村交流の継続による持続的な棚田保全活動、外部人材定住化のための空き家活用、棚田への安定した水利確保のための水路改修等を実施していく。

（地区概要）旧姫治村は、本市の南部に位置する山村地域で、面積67.86km²と本市面積の約半分超を占めておりその8割近くが山林である。

【基本情報】

保全を図る棚田等	264.6ha
棚田百選	つづら棚田
その他	重要伝統建造物群保存地区(新川・田箆地区)、重要里地里山(小塩地区)、水源の森百選(妹川地区)、棚田カード(つづら棚田)

【これまでの取組】

つづら棚田集落協定(つづら棚田保全協議会)

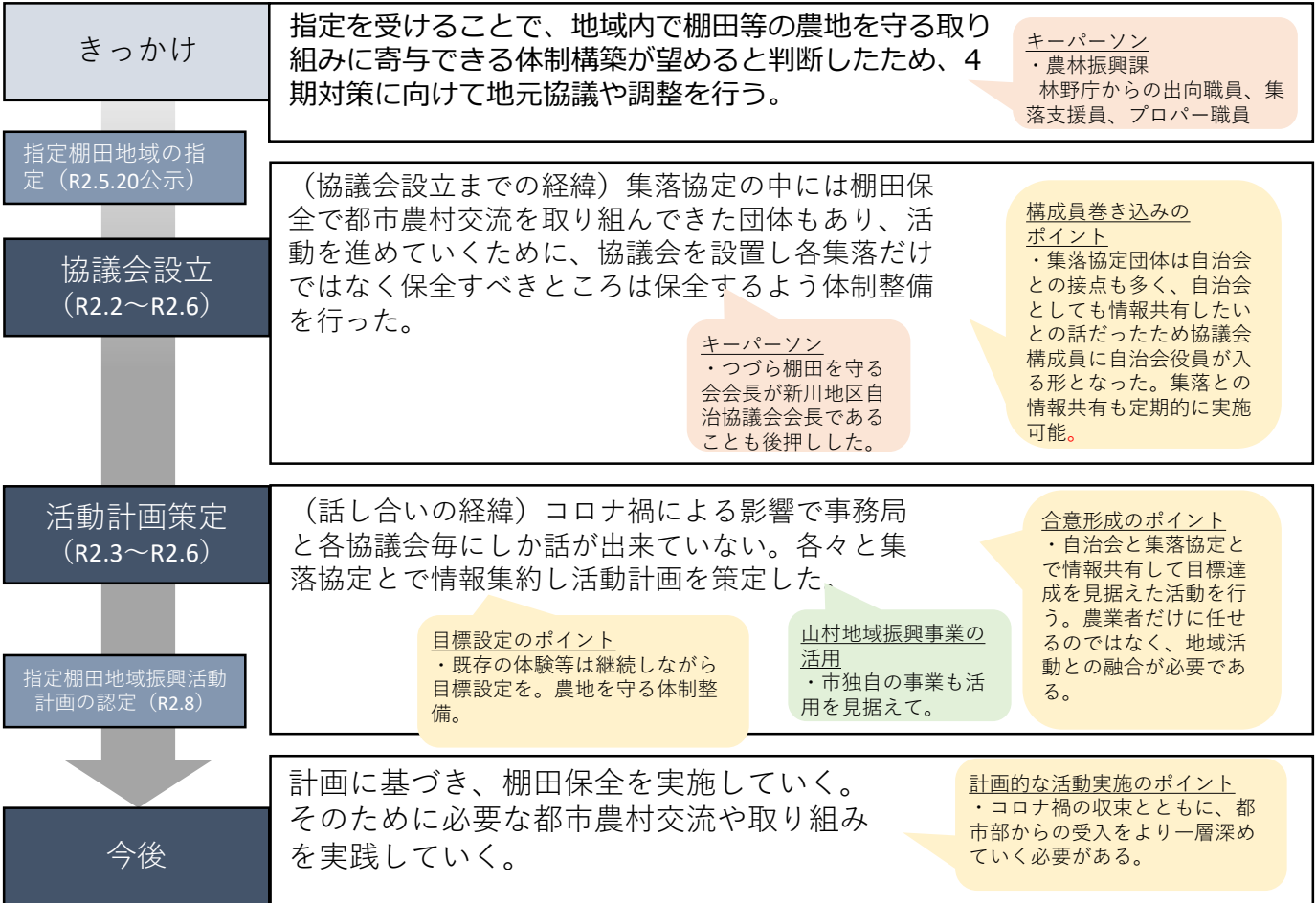
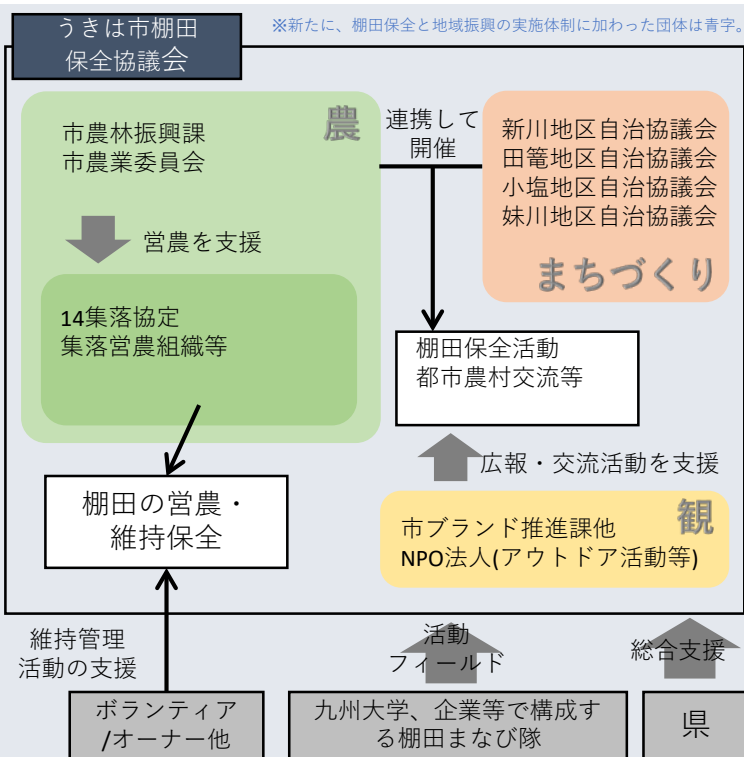


（取組概要）毎年70組程度の棚田オーナーを受入。棚田の保全と棚田米等を購入していただく関係性を構築しながら体験の提供を実施。

（取組概要）九州大学大学院の研究室を中心に、棚田の営農に「学び」のスポットを当てた取り組みを実施。営農ボランティアと違い、農ガールズの畑や協力隊メンバーによるMYたんぼへ発展している。



【協議会の構成員と体制】



（神浦地区概要）長崎市の北西部に位置し、江戸時代初期に創建された寺や古い歴史を持つ神社など古来の文化が集積している地域である。

【基本情報】

保全を図る棚田等	8.4ha
日本の棚田百選	大中尾棚田
その他	日本の棚田百選、美の里づくりコンクール「農林水産省農村振興局長賞」、豊かなむらづくり全国表彰 農林水産大臣賞

【これまでの取組】

棚田オーナー制、大中尾棚田火祭り

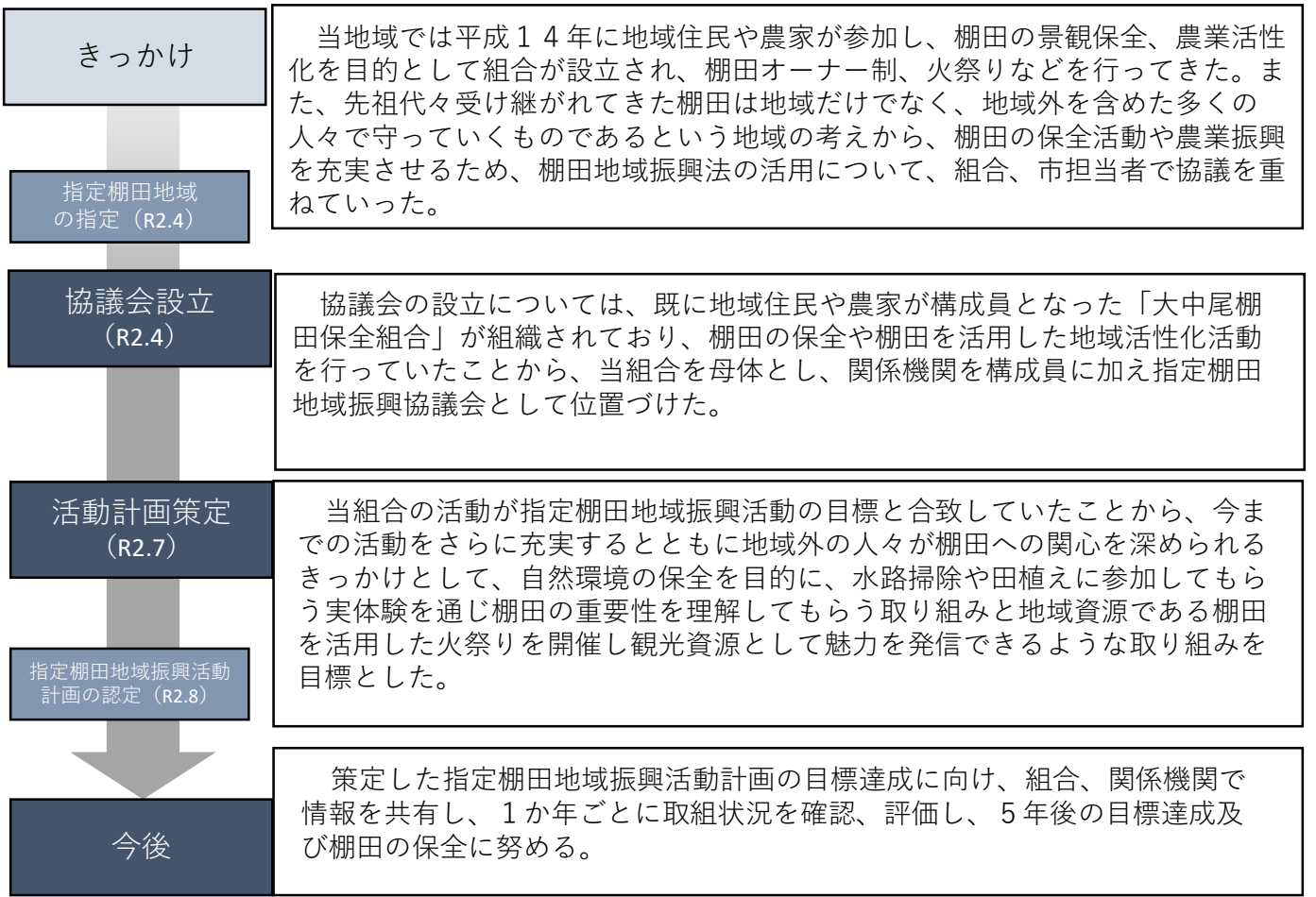
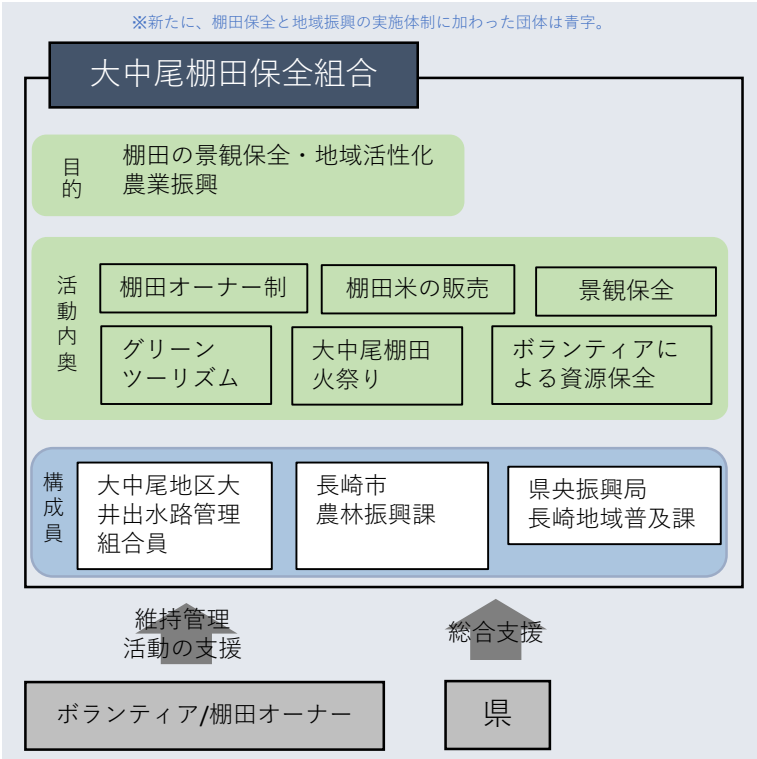


平成14年に県下初の棚田オーナー制度を導入。都市住民と協力し、棚田の保全に取り組んでいる。

棚田を地域資源とした観光振興の活動として、平成20年から毎年秋頃に大中尾棚田火祭りを実施し、多くの人が訪れている。



【協議会の構成員と体制】



まちづくり協議会、中山間直弘協定組織、平戸市が文化的景観保護制度などを活用し、棚田を含む地域資源を活かした集落の活性化に取り組む。世界文化遺産登録を契機に交流を軸にした取組を更に推進。

【基本情報】

保全を図る棚田等	10.3ha
棚田名	春日の棚田
その他	・重要文化的景観「平戸島の文化的景観」（H22） ・世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」（H30）

【これまでの取組】

春日小春日集落協定、
春日町まちづくり協議会 安満の里春日講

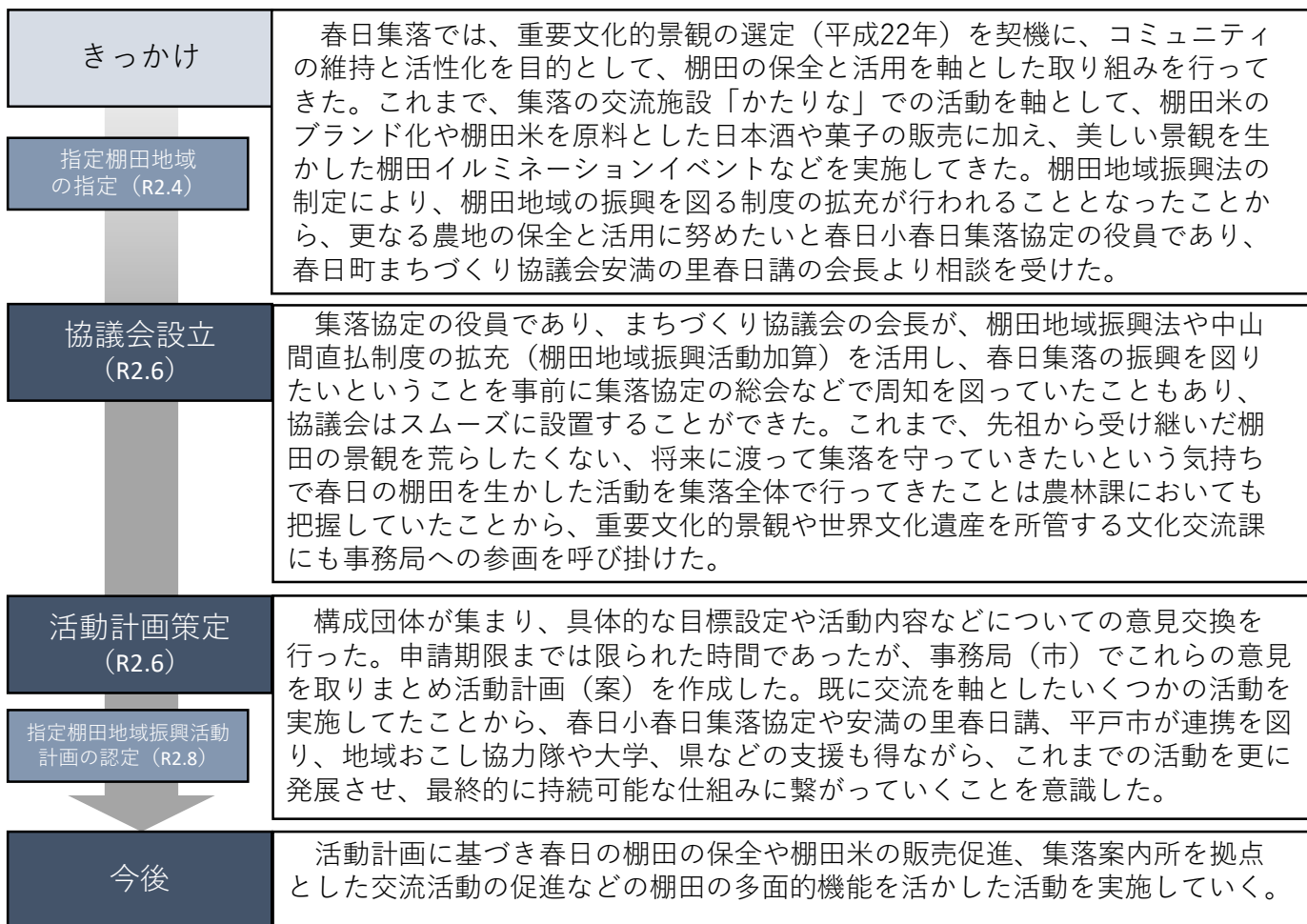
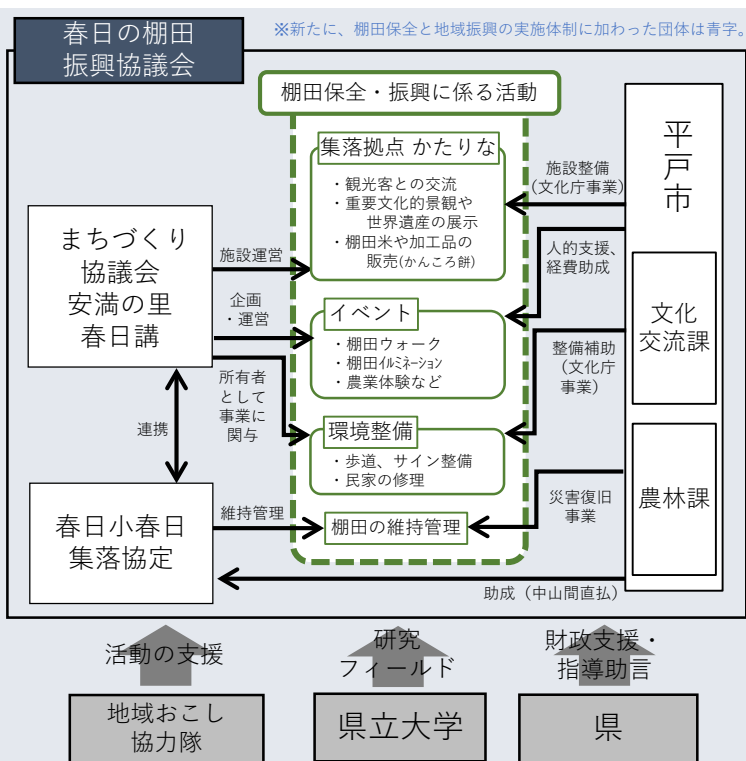


市が文化庁事業を用いて空き家を改修した案内所を建設。地元住民が来訪者に集落の解説を行い、お茶をふるまうなど地元住民との交流の場として好評である。

棚田米の高付加価値化を進めるため、企業と連携して棚田米を原料とした菓子を商品化。「平戸春日米のかんころ餅」として案内所で販売。協議会の重要な活動財源になっている。



【協議会の構成員と体制】



熊本県球磨村 球磨村棚田地域振興協議会

球磨村は熊本県の南部、人吉・球磨地方に位置する。総面積の88%を森林が占め、農林業が主産業である。農業は山間地の急傾斜地にある棚田や段々畑が舞台であり、日本棚田百選に選定された「松谷棚田」、「鬼ノ口棚田」をはじめ、数多くの棚田が点在している。

【基本情報】

保全を図る棚田等	37.7ha
日本の棚田百選	松谷棚田、鬼ノ口棚田
その他	豊かなむらづくり全国表彰農林水産大臣賞、棚田カード、日本で最も美しい村

【これまでの取組】

松谷棚田保存会

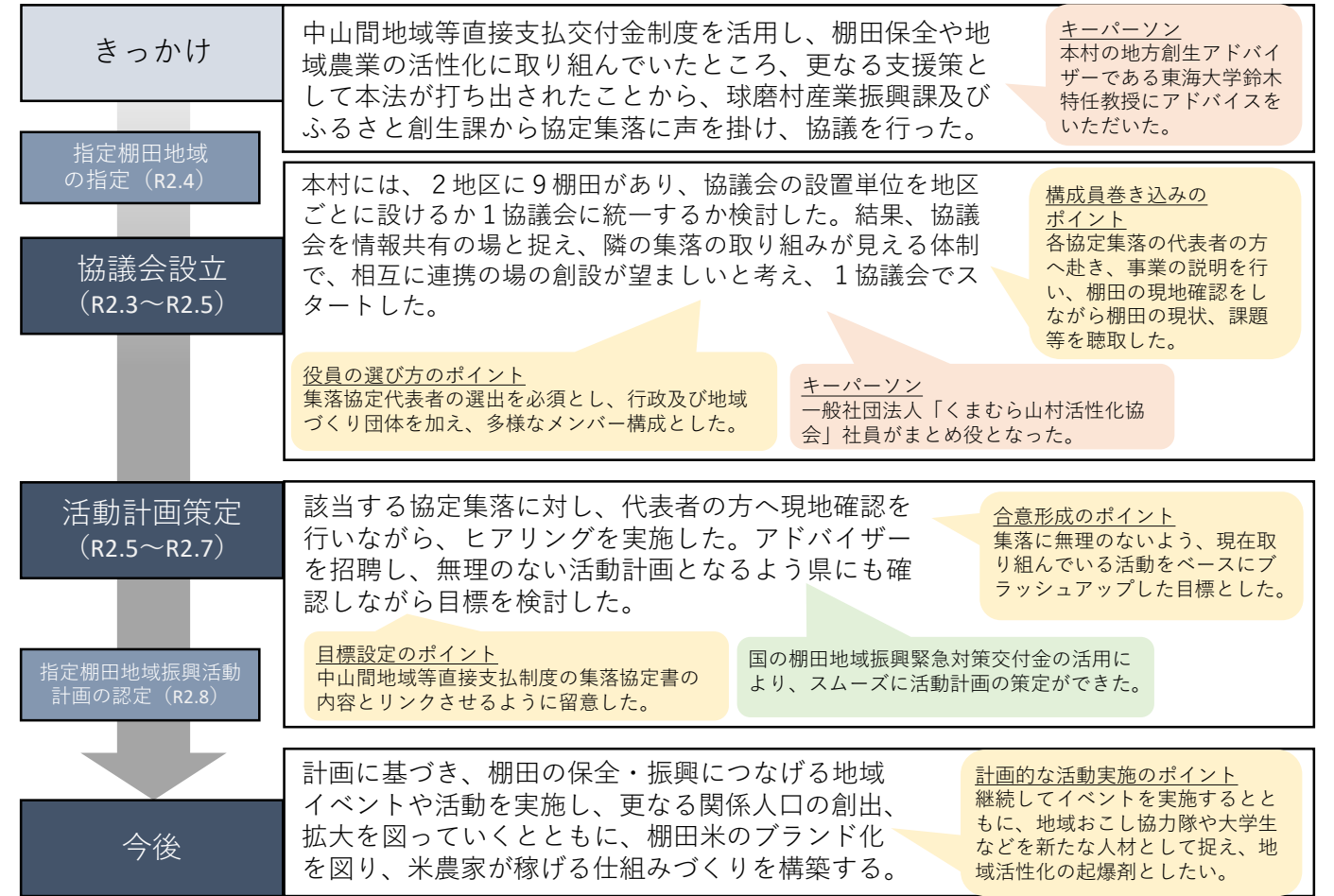
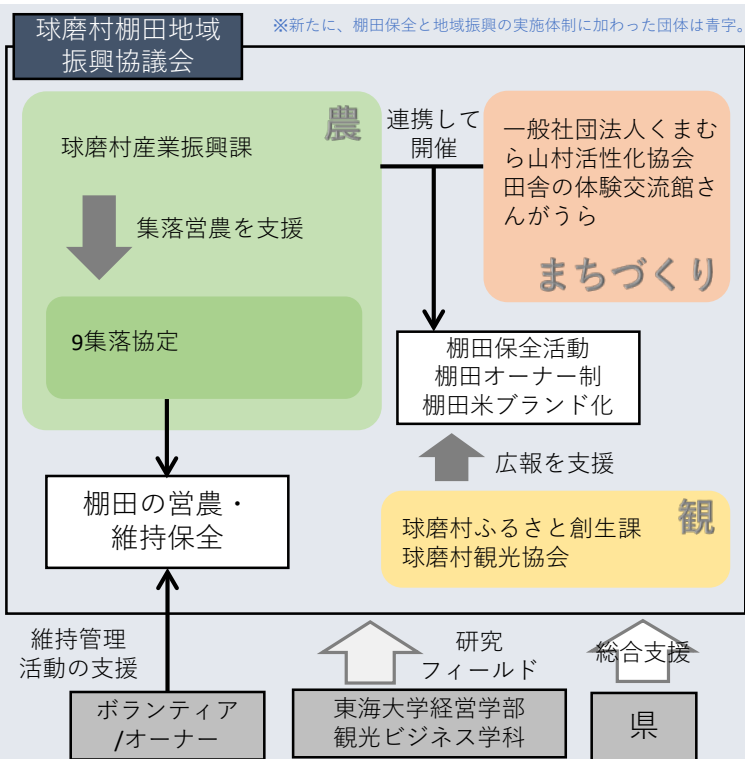


（棚田オーナー制）毎年25組程度の棚田オーナーを受け入れ、棚田米等を購入していただく関係性を構築しながら、田植え・稲刈り等の体験を提供。



（そばの栽培）耕作放棄地にそばの栽培を行い、棚田そばのブランド化及びそば打ち体験のメニュー化に取り組んでいる。

【協議会の構成員と体制】



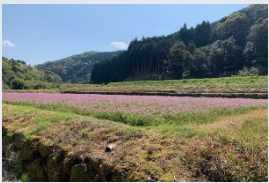
いちき串木野市旧串木野町区域及び旧市来町区域は、鹿児島県の薩摩半島北西部、日本三大砂丘の一つ吹上砂丘の北端に位置し、山林が大部分を占め耕地面積は少なく、果樹・畜産専業を中心として水稻との複合等による農業生産が展開されている
山間部において急傾斜の農用地が存在し、中山間地域等直接支払交付金等の協定区域として、農地の維持、多面的機能の保全に取り組んでいる。

【基本情報】

保全を図る棚田等	37ha
棚田の名称	久木野松下棚田、生福石野棚田、中間田（ちゅげんでん）棚田、荒川第1棚田、参幸来（さんこうく）棚田、大谷口棚田、羽島下山棚田、舟川前棚田

【これまでの取組】

これまで8棚田地域は中山間地域等直接支払交付金の集落協定に基づき、農地の耕作・維持保全に取り組んできた。



（取組概要）レンゲやヒガンバナ等景観作物の植栽や鳥獣害防止のための電気柵設置など。



（取組概要）田の神祭り等地域農村文化の継承や地域の子もたちとの農業体験など。

【協議会の構成員と体制】

